

美術科学習指導案

指導学級 1年2組

指導者 教諭 澤村美和子

場所 美術室

1 題材名 鑑賞「釜神様」

2 指導にあたって

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領美術科の第1学年1目標(3)及び2，内容「B，鑑賞」(1)「イ，身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し，そのよさや美しさなどを感じ取り，美術文化に対する関心を高めること」という視点から設定した。

教育基本法において「伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が教育の目標のひとつとして規定され，伝統と文化の尊重が強調されている。すなわち，これからの国際社会で活躍する日本人を育成するためには，我が国や郷土の伝統や文化を確実に受け止め，そのよさを継承・発展させるための教育，異文化や歴史に敬意を払い，多様な人々と共存する社会の形成を目指す教育を充実する必要があるとされている。こうした動向に沿って，学習指導要領においても伝統文化の継承と創造に関する内容を含めて，生きる力の育成に寄与できるよう各教科に盛り込む形になった。

美術科においては，目標の中に「美術文化についての理解を深め」という文言が加わり，更に鑑賞の内容として「イ，身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し，そのよさや美しさを感じ取り，美術文化に対する関心を高めること」という事項で，美術文化に親しむ学習を行うことが示唆され，「美術文化」が重要な位置付けをもっている。ここでは，様々な文化の中で受け継がれてきた伝統的なものを鑑賞することで，その国や時代に生きた人々の息遣いや美意識を感じ取るとともに，それぞれの時代の創造的な精神に触れることが示されている。このことから，今回の学習指導要領美術科改訂の趣旨の中には，鑑賞に充てる授業時数を確保し，鑑賞の指導を一層充実させること，作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や，我が国の美術や文化に関する指導を一層充実させることが求められているのが分かる。

美術文化に関する学習の課題・対象としては，地域の美術から日本の美術，そして諸外国の美術や文化遺産へと広がりをもたせる必要があると考える。そこで，まず地域素材の見直しや地域の美術文化，伝統文化を起点としてその教材化の可能性を探る中で，無意識に見過ごしていた美術品や文化財の掘り起こしを図りたいと考えた。「釜神」は，古い民家の台所や釜場の上に，或いは大黒柱に掛けられた黒く煤けたいかめしい「面」のことを指す。宮城県から岩手県南部にのみ伝わっている。一般的に伝えられているのは火の守り神ということである。火は人間の生活上必要欠くべからざるものであるが，一旦その取り扱いを間違えると，一瞬にして家や財産を灰に帰せしめるおそろしいものである。そこで火のもっている神秘的な威力を畏敬して火を崇め，火を祀る形式が生まれたものであり，それが火の神に対する信仰となり，炉や釜に対する信仰に発展したと考えられる。しかし，信仰が古いため信仰形態が一樣ではなく，火の守り以外に悪霊・泥棒除け，水難の守り，富をつかさどる，豊作祈願，家内安全，商売繁盛，子供の無事安穏な成長を祈るなどの謂われもある。主に左官職人が作

った土製、大工・神職・神楽面製作者などが作った木彫り、その他数は少ないが陶製もある。面相は、邪悪なものを一喝する様な怒り顔が主流であるが、内に秘めたる怒りの表情、無表情、笑みを含んだものもある。竈近くの柱に作り付けられたりしているため、家の改築などの際に取り壊されその数は激減し、宮城県の有形民族文化財にも指定されている。失われつつある地域の美術文化の継承と創造への関心をもたせたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒観

男子14名、女子15名、計29名のクラスである。明るく素直な生徒が多く、学級の雰囲気は和やかである。美術の授業に対しても、毎時間意欲的に取り組んでいる。中学校入学当初は、美術の授業は「嫌い」と答える生徒が多かったが、現在は「とても好き」が15名「好き」が11名、3名が「普通」と答えている。

美術の学習の中で好きな領域は①工芸（13）、②デザイン（9）、③鑑賞（5）、④絵画（1）、彫刻（1）となっており、ものを作り出す活動への興味・関心が高いことがわかる。美術鑑賞の経験は小学校で友達の作品を鑑賞し感想を書いたり、好きな作品ベスト3を選んだこと等を挙げている。美術館や博物館での鑑賞の経験、及び美術作品を鑑賞した経験はない。しかし、美術鑑賞は好きかという問いに対して「とても好き」が9名、「好き」が10名、10名が「普通」と答え、「嫌い」という回答はなかった。理由としては「工夫したことに気づき、参考にしたいと思うから」「たくさん作品を見られるから」「感動できるから」「楽しいから」「想像するのが楽しいから」「自分も作ってみたいから」などを挙げている。尚、「釜神様」を知っているかの質問に関しては、全員が「知らない」と答えている。

また、第1学年の鑑賞の活動では、作品に主体的に向き合い、自分なりの意味や価値をつくり出し、感じ取ったことや考えたことなどを、自分の価値観をもって批評することが求められているが、鑑賞の経験が少なく、語彙も少ない生徒たちであるため、感じ取ったことを言葉に表現できるかどうか不安が残る。

(3) 指導観

鑑賞の学習では、知識や定まった価値を学ぶだけではなく、知識なども生かしながら作品をじっくりと見て、その作品が自分にとってどうなのか、自分なりの意味や価値をつくり出していくことが大切である。そのために、前時の活動でインターネットを使って、「釜神様」について調べる活動を取り入れた。「なぜ作られたのか」、「どの地域に分布していたか」、「素材は何か」、「いつごろどんな人によって作られたか」等を自分で調べることを通して、実物を見たいという意欲を高めるようにした。「どこに行ったら釜神様に会えるだろう?」という課題を持ち帰り、家族や親戚、近所の人から情報を得て、実際に会うことができた生徒に「私が見た釜神様」をその写真と共にレポートし発表させることにした。鑑賞の活動では、生徒一人一人が作品に主体的に向き合い、自分なりの意味や価値をつくり出していくことが大切であると考え、自分が苦労して見つけた「釜神様」に主体的に向き合う生徒の姿を期待したい。

鑑賞の能力を育成する際には、自分の価値意識をもって批評し合うなど、言語活動を生かすことが大切であるとされている。これまでの鑑賞の授業では、直感的に感じたことを書いたり発表することが多かったが、それだけで終わり、鑑賞の学習が深まらないことも少なくない。最初から感じたことや作品について考えたことを、根拠をもって述べたり、批評したりすることは難しいが、そのような

力を3年間の中で身に付けさせたいと思う。第1学年では「作品などに対する思いや考えを説明し合う」ことを目標としている。本題材では、発表をする生徒に〔共通事項〕の視点である形や色彩、材質など、視点を明確に与えイメージをとらえさせ、更に感じ取ったことを事前に文章に書いてまとめさせ、感じた内容や考えを整理させるようにしたい。自分で感じたことや考えたことを発表したりするなど言語化することで、対象をより深く見つめるきっかけになったり、批評する能力が高まるものと思われる。また、他の生徒については、気付いたことを自由に発表させ、様々な見方、とらえ方、価値があることを、意見の交流を通して共有させたい。そして、今回全ての教科・領域で求められている「言語活動の充実」につなげたい。

「釜神様」は、宮城県の有形民族文化財に指定されているが、その数は激減の一途をたどっている。文化遺産はその文化を共有する集団が大切に守り、過去から未来へと継承していこうとするものを指すという。わずかではあるが現存している「釜神様」の実物を生徒にしっかり見せ、感じ取らせることが重要であると考え。本時の授業の中で、実物を鑑賞することはもちろんであるが、地域の美術館や博物館などを活用し、可能な限り実物を鑑賞する機会をつくりたい。これらは、大切に守ろうとする人々の願いがなければ消え去っていくおそれがある。生徒が直接の継承者にならないとしても、その保護の意義を認め、間接的にでも支援できる大人に育っていけるよう指導したい。さらに、釜神様を彫る職人となり、松島町高城で工房釜神をひらいた地元の作家の話聞かせたい。伝統から新しい知識や考えを得て、新しいものを生み出すことにつながっていることも理解させたい。

古めかしく権威的と敬遠されがちな日本の美術にも、圧倒的な迫力をもつ作品、昔の人々の思いや祈りが込められた作品がある。伝統工芸は個人の思いだけで作っているのではなく、社会の中で人々を支え、潤いを与えるよう、時代に沿ってつくられていることなどの精神性を伝えられるようにしていく必要がある。

身近な地域の生活の中の造形としての「釜神」について関心をもち、対象と向き合い、感性や想像力を働かせてよさや美しさを味わい、表現の素晴らしさ、作品鑑賞の在り方を理解させたい。また、鑑賞を通して昔の人々の思い・心を知り、家族を守り、自分を戒める「釜神様」を自らの手で制作したいという意欲をもたせ、2年時での彫刻「釜神様」の授業につなげたい。

(4) 校内研究主題との関連

よりよく生きようとする心を育む道德教育
～生徒の心に響く道德の授業実践を通して～

美術科では従前より「…感性を豊かにし、…情操を養うこと」を目標としてきた。それは、創造する喜びを味わわせ、美しいものや崇高なものを尊重する心を育てることであり、創造や鑑賞を通して豊かな情操を養うことが道德性の基盤を養うことにつながることを意味している。

第1学年のB鑑賞、(1)「イ、身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めること」の学習と道德「4(8)地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める」と「4(9)日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する」に関連すると考えられる。「釜神様」の鑑賞を通して、日本及び地域の美術文化を理解し、日本や郷土を愛し、文化の継承と創造に寄与する態度を養いたい。

3 指導目標

- (1) 「関心・意欲・態度」…身近な生活の中にある「釜神様」に興味をもち、調べ学習や鑑賞の学習に意欲的に取り組み、その継承と創造への意欲をもつことができる。
- (2) 「発想・構想」……………「釜神様」に現れた作者の思いや心情を想像することができる。
- (3) 「技能・表現」……………「釜神様」を味わい、イメージから発想し、自分の意見を発表したり、感想を書いたりすることができる。
- (4) 「鑑賞」……………「釜神様」を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取ることができる。

4 指導計画（2時間扱い）

- (1) 釜神様って何だろう？……………（1時間）
- (2) 釜神様を鑑賞しよう……………（1時間）本時

5 本時の指導

- (1) 題材名 釜神様を鑑賞しよう
- (2) 本時の目標
 - ① 「釜神様」を鑑賞し、形、色、材料等から造形的なよさや美しさを感じ取り、自分のことばで表すことができる。
※ここでいう美しさとは、「きれいな表現」に限定せず、制作意図に込められた思い等も指す。
 - ② 「釜神様」が日本の風土や生活の中で育まれてきたことを知り、その継承と創造への意欲をもつことができる。

(3) 本時の指導にあたって

鑑賞の授業において、作品との出会い方がとても重要である。生徒それぞれが実際に目にした「釜神様」をレポートさせ、感じたことを発表させたい。第1学年の鑑賞の学習では、「作品などに対する思いや考えを説明し合う」ことを目標としているので、感じたことや考えたことを根拠をもって述べられるよう、対話をしながら事前に文章に書いてまとめ、整理し発表させるようにしたい。

また、生徒の感性をより深めるために実物の「釜神様」の掲示をしたい。形、色、材料等が異なる実物の「釜神様」と対面し、その歴史を肌で感じ、実際に見たものから発表させる中で様々な見方、とらえ方、価値があることを、意見の交流を通して共有させるようにしたい。

展開の後段では、「釜神様」に魅せられ、職人となり松島町で工房をひらいている地元の作家の方の声をVTRを通して聞かせたい。なぜ、「釜神様」を作ろうと思ったのか、どんな思いで作っているのか等、大切に守ろうとしている人の願いを感じとらせたい。地域の生活の中で生まれ、人々の「思いの形」として大切に育まれてきた「釜神様」、それを保護し、継承していこうとする心情をもち、更には、自分でも制作してみたいという意欲をもたせたいと考える。

(4) 学習過程 別紙参照

(5) 評価

- ① 「釜神様」を鑑賞し、形、色、材料等から造形的なよさや美しさを感じ取り、自分のことばで表すことができたか。

②「釜神様」が日本の風土や生活の中で育まれてきたことを知り、その継承と創造への意欲をもつことができたか。

具体の評価基準

	A：十分満足できる	B：概ね満足できる	努力を要する生徒への手立て
①「釜神様」を鑑賞し、形、色、材料等から造形的なよさや美しさを感じとり、自分のことばで表すことができる。【鑑賞】	「釜神様」を鑑賞し、形や色、材料等から、造形的なよさや美しさ、作者の思いや意図に気付き、自分なりのことばにすることができる。	「釜神様」を鑑賞し、形や色、材料等から、造形的なよさや美しさを素直に感じ取ることができる。	形や色、材料等、鑑賞する視点を与えたり、時代背景等作者の思いや意図を感じ取れるようにする。
②「釜神様」が日本の風土や生活の中で育まれてきたことを知り、その継承と創造への意欲をもつことができる。【関心、意欲、態度】	「釜神様」が日本の生活の中で育まれてきたことを知り、それを受け継いでいくこと、更に自分でも創造したいという意欲をもつことができる。	「釜神様」が日本の生活の中で育まれてきたことを知り、その継承や創造への関心をもつことができる。	「釜神様」の作者の思いや、守っていこうとする人々の心情等を汲み取らせるようにする。

(6) 準備物

教師：パソコン、プロジェクター、スクリーン、DVD

釜神様

生徒：筆記用具、鑑賞ノート

(7) 座席表（当日配布）

(8) 補助資料 別紙参照

(9) 板書計画

釜神様を鑑賞しよう			
	(1)土製の釜神様	(2)木製の釜神様	(3)新しい釜神様
学習のめあて 釜神様を鑑賞し、 感じたことを発表しよう	•	•	•
	•	•	•
	•	•	•
	•	•	•
	•	•	•

(4) 学習過程

段階 (時間)	学 習 活 動	形態	教師の支援・留意点 ○：支援 ●：留意点	評価の観点	資料 準備物
導入 5分	(1)あいさつ (2)本時の学習内容について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 釜神様を鑑賞し、感じたことを発表しよう。 </div> ・「釜神様」について調べたことの復習をする。	一斉	●教師の話をしっかり聞かせるようにする。 ●当時の人々の信仰心、思いや祈りの根底にあるものにも気づかせたい。	・本時の学習内容について理解し、意欲的に鑑賞の活動に取り組もうとする。	学習 プリント パソコン
展開 40分	(3)「私が見た釜神様」について発表をする。 (4)「釜神様」の実物を鑑賞する。 ①土製の釜神様 ②木製の釜神様 ③新しい釜神様 ○感想を発表する。 ・新しい釜神様が格好いい。 (5)「釜神様」に魅せられ作家になった人の話を聞く。 ○感想を発表する。 ・サラリーマンを辞めてまで「釜神様」を作ろうと思ったのがすごい。	一斉 個別 一斉	○生徒が撮ってきた写真を、スクリーンに映し出し、紹介できるようにしておく。 ○発表内容についても、事前に確認しておき、なぜそう思ったのか等深く考えさせ、文章にまとめさせる。 ○釜神様を実際に見る機会を与え、その歴史を肌で感じさせるようにする。 ●それぞれを見比べ、自分が気に入った作品について、鑑賞させるようにする。なぜ、それがいいと思ったのか根拠を述べさせるようにする。 ○作家の思いを知ることで、現代に引き継がれた伝統の重みに気付かせたい。 ○「釜神様」のような伝統工芸品には、作った人の心が込められていることに気付かせたい。	・形、色、材料等から造形的なよさや美しさを感じとり、自分のことばで表すことができる。① ・「釜神様」に込められた人々の思い・心について感じ取り、伝統を大切にしていこうとする意欲をもつことができる。②	釜神様 学習 プリント
終結 5分	(7)再度、いろいろな「釜神様」を鑑賞し、本時の感想をまとめる。	個別	●静かな雰囲気の中で、いろいろな「釜神様」を鑑賞させ、昔の人々の思いを再度感じ取らせたい。	・「釜神様」に託された思いを再度感じ取り、自分や家族を守る「釜神様」を制作したいという意欲をもつことができる。 ②	学習 プリント

釜神様って何だろう？

釜神様は、古い民家の台所や釜場の上に、あるいは大黒柱に掛けられた黒く煤（すす）けた、いかめしい面のことを言う。東北地方のある限定された地域にのみ伝わっている。

▽ 調べてみよう

1 昔の人は、なぜ「釜神様」を作ったのだろう？

2 「釜神様」はどの地域に分布していただろう？

3 「釜神様」は地域によって名称が違っている。どんな呼び方があるだろう？

4 「釜神様」にはどんな素材のものがあるだろう？

5 「釜神様」はいつごろ作られただろう？

6 「釜神様」は誰が作ったのだろう？

7 どこに行ったら「釜神様」に会えるだろう？

「私が見た釜神様」

所在地		形
所蔵者		
材 質		
大きさ		
色		
特 徴		
釜神様を見て感じたこと、考えたこと。		

「私が見た釜神様」

所在地	東松島市浅井	形
所蔵者	内海さん	
材 質	木製	
大きさ	70cm×60cm	
色	こげ茶色	
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目がアワビの貝殻 ・ 口が山のような ・ しわが多く迫力がある 	

釜神様を見て感じたこと、考えたこと。

- ・ まず、その大きさと釜神様の表情に驚いてしまいました。特に、目がきらきらと光っていて、口がへ字になっていたの、恐いと思いました。何に対してこんな怖い顔をしているのかと思いましたが、恐らく悪いことが逃げていくように、あんな顔をしているのだと思いました。
- ・ 木に貝殻をはめ込むのは大変な作業だったろうと思います。作者は、この家とこの家の家族のことを思い、一生懸命作ったのだと思いました。
- ・ 以前の家は300年以上前に建てられた家で、その家にあったそうですが、現在の新しい家でも台所にまつてありました。火の守りの意味もあると思いますが、内海さんの話によると亡くなったおばあさんが毎日のように釜神様の目を磨いていたそうです。今日も災いがふりかからず、無事に過ごせますようにとの思いから大切にしてきたのではないかと思います。長い間、この家を守ってきて、今でも頼りにされていると感じました。
- ・ やはり目が印象的で、あのきらきらした目で、一家を優しく見守っているのだと思いました。見方によっては怒っているようにも、優しく見守っているようにも見えました。

1年組番氏名

釜神様を鑑賞しよう

▽ 私は の釜神様を鑑賞します。

材 料		形
大きさ	cm× cm	
色		
特 徴	<ul style="list-style-type: none">・・・・	
感じたこと・考えたこと		

※ なぜそれがいいと思ったのか、よさや美しさ（作者の思い）等、感じ取ったことを書いてみよう。

1 年 組 番 氏名

▽ 今日の授業を振り返って

- | | |
|---|--------|
| 1 鑑賞の学習に意欲的に取り組みましたか。 | はい・いいえ |
| 2 釜神様を鑑賞し、感じ取ったことを
自分のことばで表すことができましたか。 | はい・いいえ |
| 3 伝統を守ることの大切さに気づきましたか。 | はい・いいえ |
| 4 釜神様を作ってみたいと思いましたか。 | はい・いいえ |